

バラの改良切り上げ栽培による増収効果			
[要約] 「サムライ 08」と「アマダ+」は、改良切り上げ方式による切り花栽培において、切り花長がやや短くなるものの増収する。増収効果は、ベーサルシュートを 15cm 残す方式の方が、5cm 残すよりも高い。			
茨城県農業総合センター園芸研究所	平成30年度	成果区分	技術情報

1. 背景・ねらい

バラ切り花生産において、高単価で取り引きされる冬季の多収栽培技術の確立が望まれている。そこで、アーチング栽培をベースに主流品種に適した整枝剪定方法を検討する。具体的には、ベーサルシュートを株元から残して採花し、その後、切り上げ採花を行う「改良切り上げ方式」（図1）による増収効果と切り花形質への影響を明らかにする。

2. 成果の内容・特徴

1) 採花本数は、いずれの品種においても、切り上げ②区>切り上げ①区>慣行区の順に多い。増収効果が最も高かった切り上げ②区は、慣行区と比較し、「サムライ 08」で 83.3%、「アマダ+」で 95.2%増収する（表1）。

2) 切り花形質は、切り上げ区が慣行区に比べ、切り花長が短く、切り花重が軽くなる。茎径も細くなり、切り花品質はやや低下する（表1）。

3) 階級別採花本数は、「サムライ 08」の切り上げ①区を除き、70cm以下の階級の方が、70cm以上の階級よりも増加する（図2）。

3. 成果の活用面・留意点

1) 慣行区は、ベーサルシュートを株元で採花する方式。切り上げ①区はベーサルシュートを株元から 5 cm 残して採花し、以後は 5 段目まで 5 cm ずつ切り上げ採花を行い、5 段目以降は 1 段ずつ切り下げる方式。切り上げ②区は、ベーサルシュートを 15cm 残して採花し、以降の管理は切り上げ①区と同様（図1）。

2) 本成果は「サムライ 08」及び「アマダ+」を用いて得られたもので、品種によって改良切り上げ方式の効果が異なる可能性がある。

4. 具体的データ

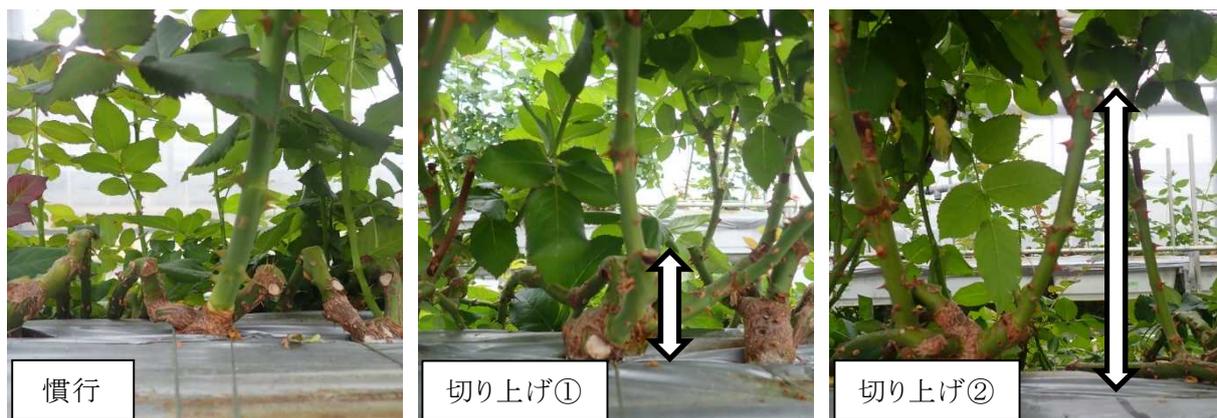


図1 改良切り上げ方式の株元

注) 慣行：株元採花

切り上げ①：ベーサルシュートを株元から5cm残して採花し、以後は5段目まで5cmずつ切り上げ採花を行った。5段目以降は、1段ずつ切り下げた。

切り上げ②：ベーサルシュートを株元から15cm残して採花し、以後は5段目まで5cmずつ切り上げ採花を行った。5段目以降は、1段ずつ切り下げた。

表1 バラ栽培における改良切り上げ方式が採花本数と切り花形質に及ぼす影響

品種	試験区	採花本数 ¹⁾ (本/株)	増収率 ²⁾ (%)	切り花長 (cm)	花首長 (cm)	花高 (cm)	切り花重 (g)	節数 (節)	茎径 ³⁾ (mm)
サムライ08	慣行	6.6	-	85.6	9.2	5.3	68.9	18.1	7.5
	切り上げ①	9.5	43.9	82.2	9.7	5.3	59.9	15.9	6.6
	切り上げ②	12.1	83.3	74.9	9.6	5.2	52.7	14.6	6.3
アマダ+	慣行	8.3	-	78.7	13.5	4.6	55.2	15.1	7.9
	切り上げ①	12.3	48.2	70.5	12.9	4.7	49.0	12.6	6.5
	切り上げ②	16.2	95.2	66.9	12.2	4.6	44.7	11.8	6.2

注) プランターに培養土を入れた少量土壌培地耕、アーチング仕立て

注) 切り上げ区では、ベーサルシュートを最大3本残して切り上げ採花を行った

¹⁾ 採花は平成29年10月2日から平成30年5月1日(2年生株)

²⁾ 慣行に対する採花本数の増収率

³⁾ 切り口から1cm上部を測定

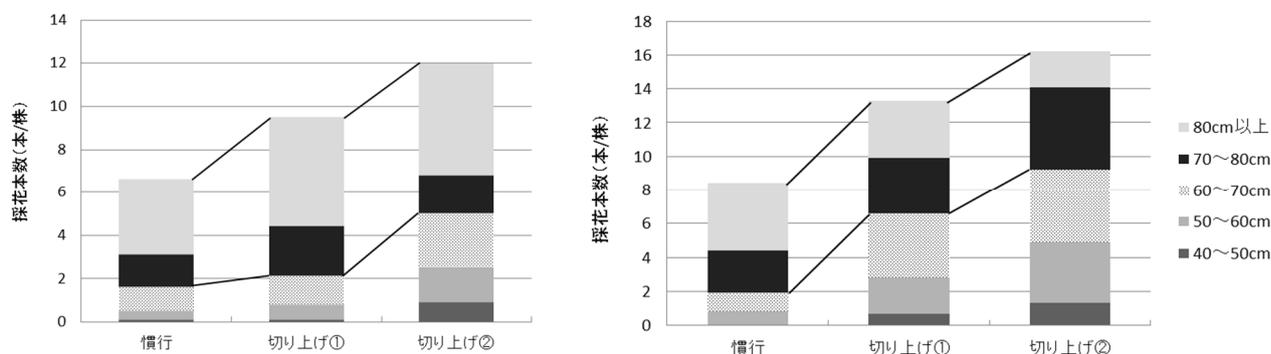


図2 改良切り上げ方式の階級別採花本数 (左:「サムライ08」、右「アマダ+」)

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

バラ栽培における効率的な秋冬期増収技術の確立・平成29～平成31年度・花き研究室